

「忍耐と我慢」

～あなたはどちら？～

民数記 21 : 4～9

我慢とは

1. 慢(ま)は仏教が教える煩惱の1つである。他人と比較して思い上がることをいい、キリスト教で言う放漫に当たる。
2. 俗に我慢といい、我が身をのみ頼みて人を侮るようなところを示す。
3. 仏教では人間を固定的な実体として捉え、自己に執着することを我執といいその我執から自分を高くみて他人を軽視する心をいった。

我慢は喜ばしい言葉ではなく、したいのにできない事。また、自分に無理をして強制的に止めなければならないものです。本人や相手にとっても良くないものなのです。我慢は相手をさげすむ行為であり、相手に変化を求めながら耐える行為であり、我慢は良く耐えるという意味ではありません。自己中心に陥ったものであり、我慢は罪なのです。

①我慢をやめて忍耐へ

忍耐とは

忍耐とはおきた事実がなぜそうなったかの理解した上で我慢する行為のことです。忍耐には希望が伴い、忍耐をする人に神は必ず良くしてくださる事を神が保証してくださいます。信仰を持つ私達は神との平和を持っています。ですから、悔いて改める行為を行えば回復へと繋がっていきます。その為に人は自分の罪は認めなければならないのです。イスラエルの民が忍耐できなかったのは認められなかったからです。忍耐とは相手を認めるという事です。

②代々の忍耐による希望 ヘブル 11-22

私達はなぜ人を認めないのでしょうか？人を傷つける行為と殺す行為は同じであると聖書では言われています。人を

認めない行為は相手の心を傷つけ、相手を殺す行為と同じなのです。クリスチャンはいく先々で栄光をあらわし、祝福され栄える人々です。それを心から信じなければなりません。イスラエルの民のようにこころを閉ざし、他人に責任を押し付ける時にはその道は閉ざされたままとなるでしょう。キリストや今まで多くのクリスチャンが行った忍耐を私達は継承していかなければなりません。

③キリストを見る 認める

忍とは心を切ると書きます。

ヘブル 4 : 12～13

というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

心を頑固にせず心を開きましょう。人があなたを変える事は出来ませんが、あなたが変わる事は出来ます。そして人々に愛を注ぐ事をしていきましょう。

キリストは私達のために忍耐をください神と和解して下さいました。私達もその痛みを受け入れ忍耐をしていきましょう。

(要約者:小根久保 伸彦)

(9月18日)